

2015年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、アラスカ～カナダ西部，ヨーロッパ北部で正偏差，アラスカの南海上，カナダ北部，西シベリア，日本付近で負偏差となった。ユーラシア大陸南部から日本の東海上にかけての偏西風は，全体的に平年と比べて南寄りを流れた。帯状平均した対流圏の気温は，60°S 付近を除く広い範囲で高温偏差となった。

熱帯の対流活動は，平年と比べて，日付変更線西側の赤道域～太平洋中・東部の5°N 帯で活発，インド洋東部～海洋大陸（インドネシア多島海）で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は，上旬～中旬は不明瞭で，下旬はインド洋を東進した。対流圏下層では，太平洋で南北半球対の低気圧性循環偏差，インド洋で高気圧性循環偏差となり，それぞれ太平洋の赤道域では西風偏差が，インド洋東部の赤道域では東風偏差が卓越した。対流圏上層では，太平洋では高気圧性循環偏差が南北半球対で見られた。南方振動指数は-1.6だった。

世界の天候

2015年10月の世界の月平均気温偏差は+0.53°C（速報値）で，1891年の統計開始以来，最も高い値となった。10月の世界の平均気温は，上昇傾向が続いており，長期的な上昇率は約0.64°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

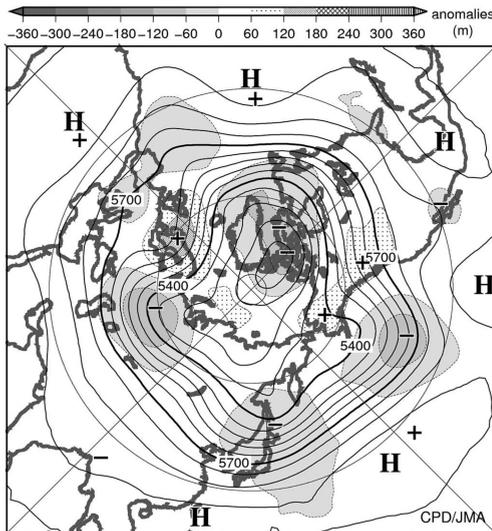
- 低緯度域の各地で異常高温となった。
- ヨーロッパ北部及びその周辺で異常少雨となった。
- アルゼンチン及びその周辺で異常低温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については，気象庁ホームページ

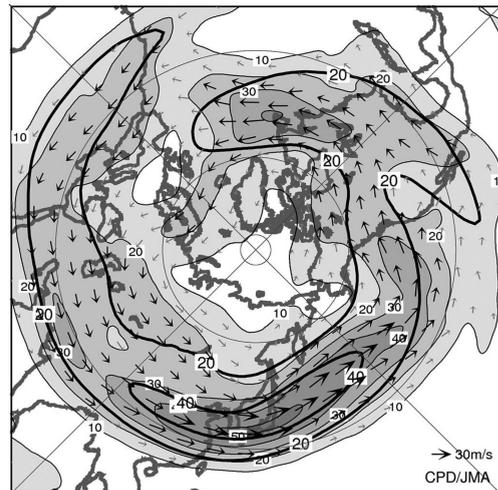
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



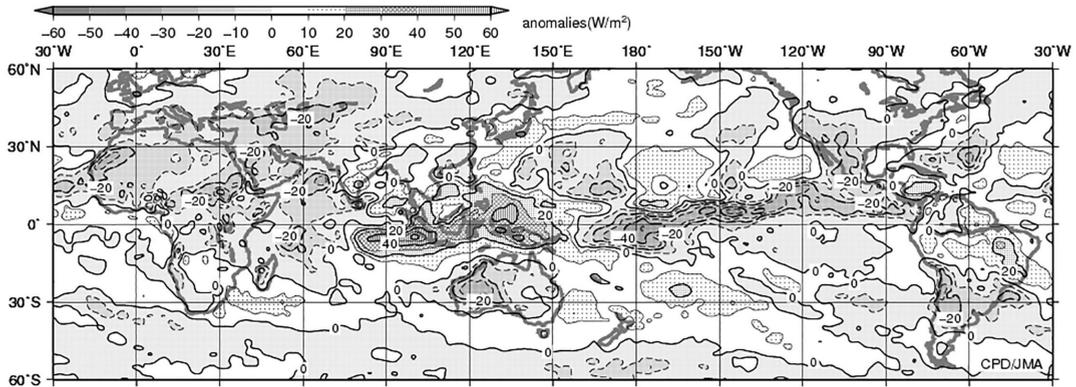
2015年10月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

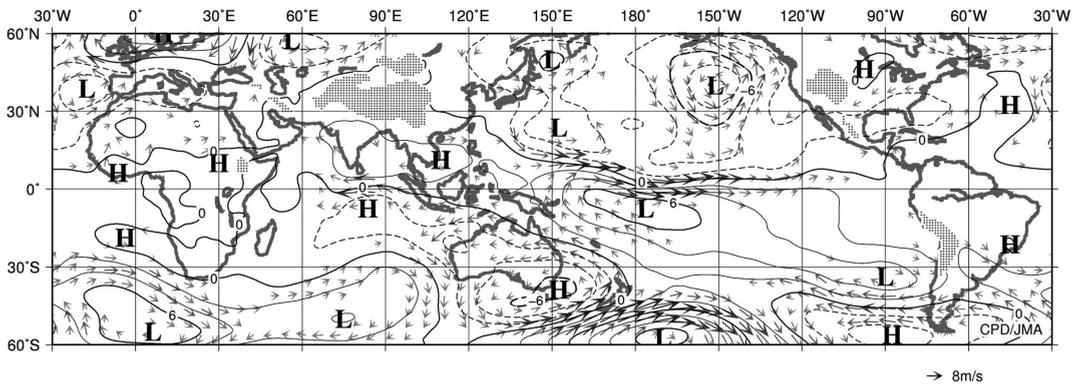


2015年10月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル

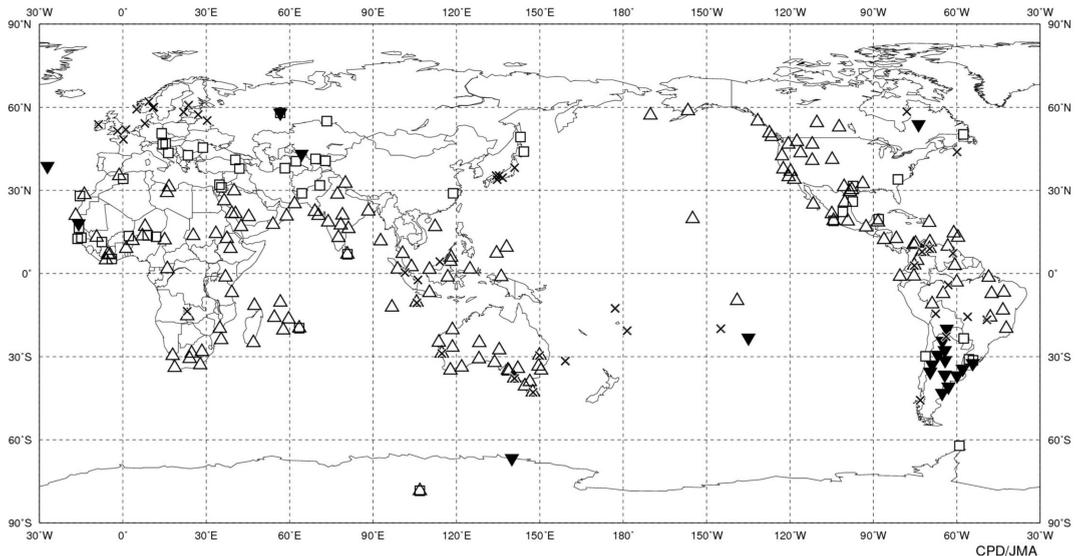
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2015年10月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年10月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6 および0。